

## 立命館大学大学院専修生規程

### (目的)

第1条 この規程は、立命館大学専門職大学院学則(以下「専門職大学院学則」という。)第36条の2第2項にもとづき専修生に関する事項を定めることを目的とする。

### (種類)

第2条 専修生は、次の研究科で受け入れる。

- (1) 法務研究科
- (2) 経営管理研究科

2 前項第1号の専修生を法務専修生と称し、前項第2号の専修生を会計専修生と称す。

### (資格)

第3条 前条第1項第1号の研究科に専修生を志願することができる者は、当該研究科の専門職の学位を得た者で、かつ司法試験法および裁判所法の一部を改正する法律附則第6条第2項にもとづく新司法試験の受験資格を有する者とする。ただし、次の者は専修生を志願することができない。

- (1) 後期に当該研究科を修了し、専門職学位を得た日の次の学期開始日から起算して3か年を過ぎた者
- (2) 前期に当該研究科を修了し、専門職学位を得た日の次の学期開始日から起算して3年6か月を過ぎた者

2 前条第1項第2号の研究科に専修生を志願することができる者は、当該研究科のアカウントティング・プログラムにおいて専門職の学位を得た者とする。ただし、専門職学位を得た日の次の学期開始日から起算して2か年を過ぎた者は、専修生を志願することができない。

### (出願)

第4条 専修生を志願する者は、所定の期日までに次の出願書類を添え、専修生として学習の継続および施設の利用を希望する研究科の長に願い出なければならない。

- (1) 専修生願
- (2) その他研究科長が必要とする書類

2 専修生として学習の継続および施設の利用を許可された期間が終了し、引き続き専修生を希望する者は、前項に定める手続きを行わなければならない。

### (選考および決定)

第5条 前条の志願者については、研究科教授会で選考のうえ研究科長が専修生として学

習の継続および施設利用の許可を決定する。

2 研究科長は、前項の決定を志願者に通知する。

(専修生の登録手続)

第6条 専修生として学習の継続および施設の利用を許可された者は、所定の書類を提出するとともに専修料を納入しなければならない。

2 前項の手続を所定の期日までに行わなかったときは、前条の許可を取り消す。

(専修料)

第7条 専修料に関する事項については、専門職大学院学則第38条の2納付金別表1 3に定める。

(期間)

第8条 専修生として学習の継続および施設を利用することができる期間は、立命館大学学則第15条に定める学年の1年間または学期の6か月間とする。

(学習に関する助言)

第9条 専修生は、本学の教員から、学習に関する助言を受けることができる。

(施設利用の範囲)

第10条 専修生として利用することができる施設は、研究科の認めたものとする。

(専修生証)

第11条 専修生には、その身分を証明するものとして専修生証を交付する。

2 専修生証に関する事項は、立命館大学学生証規程に定める。

(諸規則の遵守)

第12条 専修生は本学の諸規則を守らなければならない。

(許可の取消)

第13条 本学の諸規則に違反する行為または専修生としてふさわしくない行為があったときは、専修生の身分を剥奪し、学習の継続および施設の利用を中止する。

(規程の改廃)

第14条 この規程の改廃は、教務会議の議を経て大学協議会で行う。

附 則

この規程は、2010年4月1日から施行する。